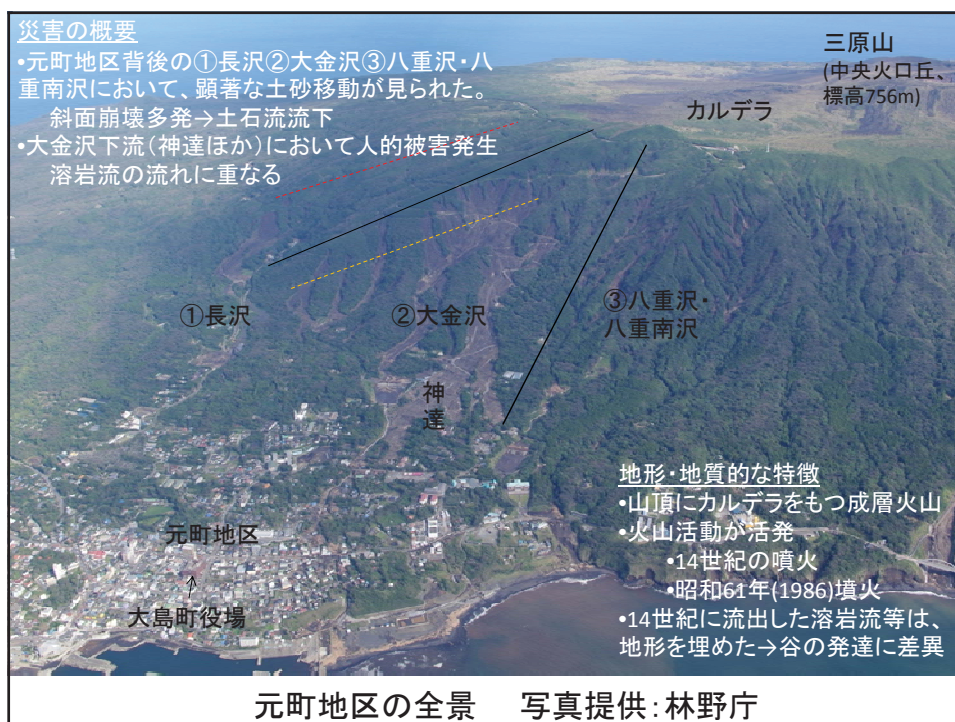
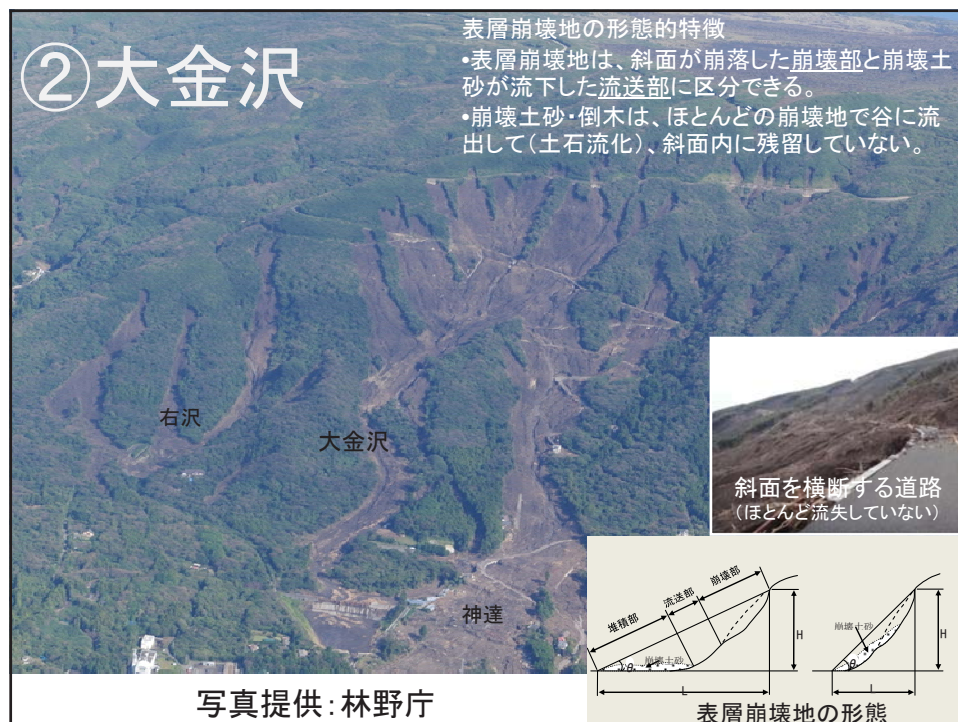
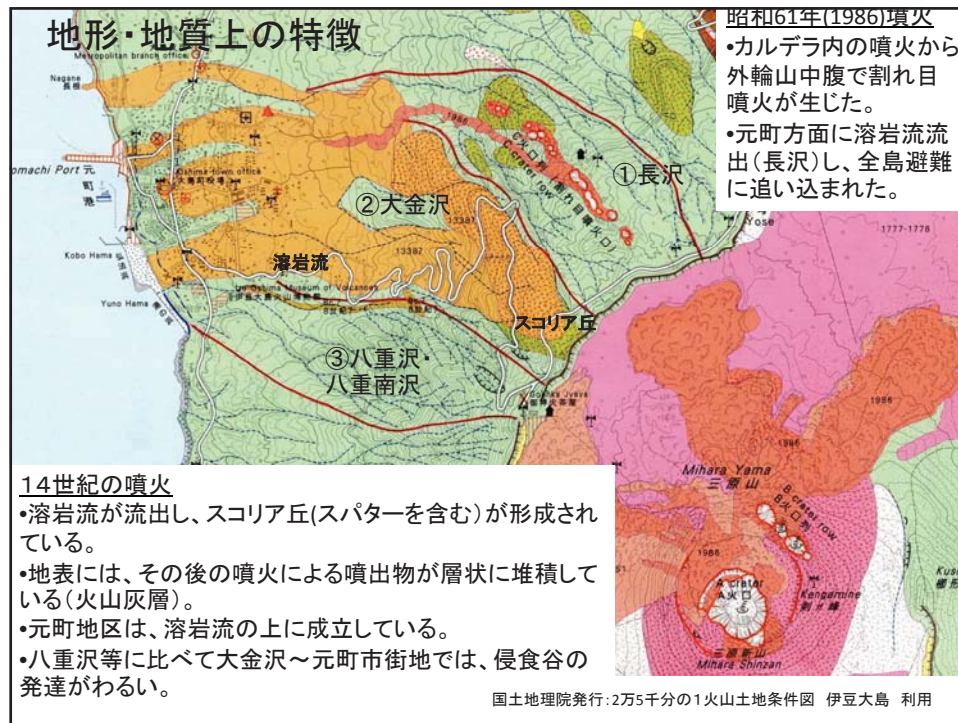










谷の状況(八重沢)

- 深い侵食谷が発達している
- 溪床に溶岩が露出している区間が多い
- 溶岩からなる滝が複数みられる。



溶岩の露出する溪床



谷壁に発生した表層崩壊地



表層崩壊地の頭部付近

- 昭和61年の火口直下に位置する
- 頭部に厚さ2m程度のスコリア堆積物がある
- 例外的に、崩壊深が2mを超える



表層崩壊の発生状況 まとめ

- 元町地区背後斜面(長沢・大金沢・八重沢・八重南沢)の上部に表層崩壊が多発している(崩壊深0.3-1.0m)。
- すべり面は、表層を覆う火山灰層内に生じている。
- 表層崩壊地は、崩落した部分(崩落部)と崩壊土砂が広がりながら流下した部分(流送部)に区分できる。
- 大金沢では、過去の噴火により地形が埋められ、比較的平滑な斜面に発生した表層崩壊地が連続して広い裸地が出現した。
- 崩壊土砂・倒木はほとんどが土石流化して谷に流出している。